

令和元年度第3回奈良県総合教育会議 = 議事概要 =

日時：令和2年1月10日

場所：奈良商工会議所4階中ホール

○荒井知事

・今年第2期教育振興大綱の策定を予定していたが、1年遅らせ、奈良県の教育課題に係る分野の有識者を探して勉強をしながら、念入りに行おうと考えている。

・課題としては、一つは、国立、私立、公立といった教育機関の組織類型の問題がある。例えば、国とのつながりが薄くなっている一部の国立に、地方が関わっていった運営の連携をするようなパターンが考えられる。

もう一つは、教育振興についての課題である。地方行政としても教育の内容等について良い意見を言って、行政でできるようなことはその会議で行っていききたいというのが奈良県教育振興大綱の目標であると考えている。ただ、教育政策の研究をする部局がない。教育研究所という機関があるが、所掌としては教育指導についての専門的、技術的な研究に限られている。

<資料1「第2期奈良県教育振興大綱策定に向けた勉強会」について>

○谷垣地域振興部次長

第2回総合教育会議において、第2期奈良県教育振興大綱の完成時期を次年度にずらし、策定に向け各教育分野ごとに専門家を招き、意見交換や勉強をして、より見識を深める機会を持った方がよいのではないかという御提案があった。これを受けて、第2期教育振興大綱策定に向けた勉強会について事務局から提案をする。

・趣旨は、第2期教育振興大綱の策定に向け、同大綱の内容を充実させていくことを

目的として勉強会を開催し、有識者との意見交換の機会とするというもの。

・位置付けとしては、奈良県総合教育会議運営要綱の第8条に基づき開催するもの。

・本日を第1回目として、以降、月2回程度の開催を予定している。

・勉強会のテーマとして、5つのカテゴリーに分けている。専門家を招き、大所高所的な観点から総合的に勉強をして、奈良県教育が目指すべき方向性の理念的な整理をして、大綱の策定につなげたいと考えている。ある程度勉強が進んだところで案を作成し、それについて議論いただく次回の総合教育会議を開催したい。

○荒井知事

ひとまずこのようにテーマを選択してあるが、まだあるかもしれないし、体系的に考えると違う切り口をした方がいいとなるかもしれないので、これに限らない。最初に出したテーマに従って勉強会を進めるが、議論が発展したらテーマのネーミングが変わることも考えられる。最後までオープンにしていくのが良いと考えている。

○谷口顧問

この勉強会と総合教育会議との関係について聞きたい。

○荒井知事

総合教育会議の中の勉強会なので、例えば大綱の体系の切り口、目次につながるような内容など、ここで書いていただいたり議論した内容が大綱の一部になれば良いと願っている。これから勉強を重ね、重なったものをまとめると立派な大綱要素になるような勉強の仕方をして、総合教育会議において大綱を作っていくための、本日は勉強会の第1回目である。

○山口教育振興課長補佐

他に御意見はないということなので、皆様方の合意を得たものとして、今後は第2期奈良県教育振興大綱の策定に向けては、奈良県総合教育会議の運営要綱の第8条に基づいて勉強会を順次開催させていただき、さらに議論を深めながら策定につなげてまいりたい。

＜資料2「第2期奈良県教育振興大綱策定に向けた第1回勉強会」について＞

○山口教育振興課長補佐

本日は、勉強会のキックオフとして、本会議の顧問、理化学研究所理事長の松本先生及び国立高等専門学校機構理事長の谷口先生のお二人を講師として、講義と意見交換を実施させていただく。第1回目の勉強会のテーマは、「職業と学び」である。

○松本顧問

・「職業と学び」は、どんな職業を目指すかにより中身が変わるが、教育は最も難しい職業の一つだと思う。人間は意外と周りの環境に大きく影響を受ける。本来は丸いスイカが四角い枠の中では四角く育つが、先生方の役目としてこれぐらい大きな影響力があるのが教育だと思っている。だから、教育する側もされる側も本来丸いものが四角になってはいないかということを常に気にかけていないと、教育はできない。

・人を育て教育は非常に難しく、放っておいても子供は本当は本来学ぶべき存在だが、ばらばらであると教育水準が上がらないということで、日本はしっかりと教育制度を整えてきた。

・奈良県の総合教育の大綱をつくるということで、地域の中で教育をどのように進めていくのかということになるが、地方ならではの教育がどれくらいできるか、全国的に通用する教育をどのように行うか、国際的に通用する人間をどう育てるかの三点がポイント。ただ、全員を国際的に通用する人にする必要はなく、そういう人も育てないといけないということ。国際的にと言っても、地方・国・グローバルを挙げたが外

の切り口もある。

・ここで議論する教育は、低学年から高等教育まで全てを見通しての話だが、奈良県
の特色を考え、これをどのように組み替えていくか、あるいは組み上げていくかとい
うことが大変重要。

基本的には独り立ちできる人間に、独立自尊ということだと思う。しかし、四角い
スイカにならないように、周りの影響だけで育つのではなく、先生方はもちろん必要
なのだが、それを超えた知識、観点を常に生徒に伝えるようにしないといけないので
はないかという気がしている。

・自分が頭の中に強く残ったのは個性ある教育をした先生。教科によって答えがある
程度決まっているものと、先生の個性によって内容が変化するものがあるが、印象に
残っているのは後者である。社会的な観点、人生の観点などは個性でおっしゃって
いたと思う。それに染まったわけではないが、こういう見方もあるのだと驚きと新鮮さ
を持って受けとめ、かなり大きな影響を受けた。全体のバランスを見て自由で自分で
考えられる人間をいかに育てるかということが大事。

・最近、文部科学省は、決まり文句の試験ではなく自分で考えて話すとか、英語でも
読み書きだけでなく聞く力が必要だとか言っているが、私は総合力だと思う。総合力
をどのように引き出すか。文系、理系と分けるようなことはぜひやめてほしい。特定
科目だけ教えるとそれにはまった人間にしかならないので、四角いスイカになってし
まう。自分で考えるには、脳の中にある程度、色々な知識がパラレルかつ同時に入っ
ていないと出せる答えがごく限られたものになってしまう。

・対応力ということを考えて、受験科目だけを教えることもよくない。奈良県の人
に聞けば何でも知っているというような豊かな教養力がほしい。したがって、奈良県
の総合力の教育では、まず県の特色を出す前に、基本的に何と何を学ばせるべきか
ということを選んでほしいが、どんな職業につくか将来わからない。何でも適用できる
頭をつくるために何でも一応基礎は学ぶことが必要だろう。

・対話と会話は違う。相手に対して自分の考えを提示すると同時に、相手の言ってることもそしゃくできる力を子供のときに付けた方がよい。

・生徒に、「人生のゴールを定めてみたらどうか」「長い人生のスパンの中であなたにはこのようなことを期待する」というような指導の仕方を考えてほしい。頂上のゴールと頂上に行くための試練として手前のゴールを絵で示したが、そこを通過して一番の最終目標はあなたにとって何かと問うて欲しい。あるいはこうであるべきだというのがゴールの概念とも言える。ここでいうと、KPIではなくKGIがそれに当たるのかもしれない。例えば歴史を教える場合に、この歴史を学んでどこへ行きどのような人生目標を設定するのかというようなことを考えさせられるような教育にしてほしいと思う。プラトンは思想だけでなく、あらゆる学問を学んだ。基盤の非常に広い人が人に接すると、人々は感動する。ピタゴラスも数学の定義しか学校教育に出てこないが、造詣が深く幅広に有名な人物。そのような人材育成を行ってほしい。

・総合力とはつながらないが、奈良県の特徴をどう出すか。この地域が古代日本の中で日本国の基礎をつくっていった地域の一つと認識し、胸を張って奈良県で教育を受けたということを言えるような教育要素も入れてほしい。

○谷口顧問

・前回示された大綱案で、「夢」「志」「希望」を持って学び云々とあったが、全体としてその通りと感じ、基本的には大変よくできていると思う。先程、松本先生の言葉にもあったが、「自信」を加えたい。それをどのように獲得させ育くむかが課題。今は、教育学部を卒業した型通りの教員が多いのかもしれないが、外部から講師を招くなどして幅広な部分を補完しているのではないかと思う。

・「なぜ勉強をするの」「なぜそんなこと知らないといけないの」ということを理解させないと、なかなか今の子供達は勉強しない。そこがうまくいけば自分が一番生かされるような職業に就くことにつながる、というのが基本。

・多様な個性、人は一人一人みんな違ってよいということを基本に置いてほしい。今、ダイバーシティ等多様性が話題となっているが、自分を大事にすることをしっかり教えてほしい。それが相手を大事にすることにもつながる。職業意識の醸成についても、「自分が何がしたいのか、何ができるのか」を考える中で、結果として職業が選ばれていくのでつながる。それぞれの存在そのものが大事なのだということを徹底的に教えないと、いじめ等が起こってしまう。存在そのものが非常に大事ということをきちんと表しているのがSDGsで、「誰ひとり取り残されない (No one will be left behind)」という言葉の中にはそのような意味を含む。一番自分が得意なこと、できることで世の中に貢献することが一番幸せであり、その過程には色々と課題があるので「くじけない精神力」も大事。自信を持ったら積極性、自主性も勝手に出てくる。

・幅広く知っている方が多様性があり可能性が広がるので良い。基本的な力として、色々な視点、多角的な物の見方で、自分の周りから世界へと目を向け、関心を持って理解しようとする力がある。教養力として、中でも日本、特に奈良、この地域の良いところをしっかりと理解しておくことが極めて大事。

・コミュニケーション力にも基本的な力が大事だと大綱案にも示されている。語学、文化、歴史が必要だが、奈良は全部そろっている。奈良公園には外国人が多くいるし、もともと奈良の都は平城京の時代、アジアの中心、国際社会だから、地域を生かすということがそれらの力の育成につながる。

・高専では、実験や実習を重ね、自分の手で何かができるということを最低1つはつくらせる。すると自信が生まれ、必ず生かそうとする。また、コンテストを効果的に使っている。例えばロボコンでは、時間、お金、重さ等制限の中で物を形にすることを覚える。3人程度しか表に出ないが、バックヤードには30~50人がおり総合力で成り立っているのだから、相手のことを考えるしチームワークも自然と覚える。

・先生に幅広い知識が、生徒の育ちにつながると思うので、できるだけ多様な先生がおられた方がいい。自分の経験だが、0点と思っていた物理の試験が80点で返却さ

れたことに驚き、先生に尋ねたところ、「仮説が間違っていたから答えは違うが、展開としてのあなたの考えは正しいので80点だ」とのこと。思考の過程を認めてもらえたので物理や化学を嫌いにならずに済んだと思っている。そのようなことが大切。

・世の中の出来事を授業や生徒との対話の中で取り上げたらよい。春日大社の「春日社」と書いてある3,000基の灯籠の内、15基ほどの「春日大明神」と書いてあるものを5つ見付けたらお金持ちになるという言い伝えがある。小学生などは、喜んで探すだろう。そういう興味を持たせやすい題材が奈良には多くあると思うので、展開して行って、遠い将来のいろんな学びに結び付けていくようなことができるとうい。

・中学生のときに奈良公園で、あの木の高さは三角形を描き必要な角度を書き入れたら分かると学び、数学が役に立つのだと思えた。先生が誘導することが必要だと思う。

・15歳の学生が、自分の欠点は幾らでも書くが、良いところについては一つ二つ書くように言ってもなかなか書けない。それは日本だけの傾向とも言われる。他国では、逆に欠点は言わず、大したことはないようなことを良いところだと言う。そこでもう負けてしまう。自分の特徴として良いところ強いところを自覚できるような指導をした方がいい。また、悪いことも裏返したら良いことになるのだから、だめだだめだ、だめなところを直せというのではなく良いこととして褒めていった方が、色々なことにチャレンジする気持ちが続く。

・何かできれば必ず自信を持つので、自信を持たせくじけない気持ちで将来に向かっていき、自分の得意な分野で自分の仕事を見付けるというのが一番幸せだろう。A B Cで示すと、Aは、action・何かやることと、ambition・思いをもつこと、それは、イロハのイである。Bは、be・あなたが存在することだけで意味がある、beyond・一歩前に出るということ。Cは、collaborationとcommunication・相手と対話をし色々な人の話も聞き、あなたも言いたいことは言うということ。

・教育の成果を見るときにはアンケートで8割ぐらいOKであればよいと言える。「なぜ勉強しないといけないか分かったか」「勉強をして満足したか」「もっと学びたい

と思うようになったか」と問うと、半分程度はイエスと今でも答えると思うが、それが6～7割となっていけばよいし、「外国人と話ができるか」と問い、できると答えるものは今は2割程度だと思うが、最終的には8割である方がよい。「自信の持てることがあるか」「何か、これはできると言えることはあるか」と問うてもよい。幾つかの施策を行い評価しながら、学生をエンカレッジしていくとよい。

・昨年150周年を迎えたが、ロシアのメンデレーエフ氏が、元素の周期表を最初に作ろうとされ、数年前に表が完成した。その中の一つがニホニウムという113番目の元素で、一時話題になった。これは高校化学だが、できるだけこういった時々の話題を入れながら学ばせると良い。ノーベル賞をもらったリチウム電池のリチウムも元素表に入っている。先生方にはその分野のおもしろさをうまく学生に伝える努力をしてほしいし、学びにつながる話題が奈良には多くあり、それが地域のためにも、その子のためにも、世の中のためにもなると考えこの大綱に活かしていただけるとよいと思う。

○荒井知事

・ありがとうございました。

改めて「職業と学び」のテーマは幅広いと感じた。「学びプロパー」と「職業のための学び」と分けると、まだ広くない。すると、我々の地域の奈良県地域振興大綱なので、「地域での職業と学び」というテーマになる。「育ての類型」「教育の類型」で「地域で育て地域で活躍する人材を育てる」と「地域で育て他市・世界で活躍する人材を育てる」について手法が違うのかというのが一つのテーマの切り口だと思う。

・組織や道程の道筋の仕分けが要るのかどうか。類型の仕分けとなると、普通教育と職業教育に仕分けられるのか、また、それを誰が、どのような時期で選択するのかというテーマが教育現場で発生するので、よく考えて道筋を提示するのが我々の役割。

・普通教育では明治以来、国家による吸い上げ教育のモデルが学歴志向、出世主義につながってきたと思うが、もう限界に来ている。

をしっかりとするような地域にしたい。教育を離れ雇用政策にもなるが。

○谷口顧問

・住むなら奈良で働く場所は大阪や京都という人も結構多い。ここに特徴的な何かを作れば、地域の終身雇用につながるかもしれない。

○荒井知事

・就業地別の有効求人倍率に関しては、奈良は近畿でずっとトップで約1.63倍。働く場所はあるが、自分にふさわしいと考えるものが見付けにくいのもかもしれない。マッチングをどうするか。働く人が足りないセクターは、例えば保育士は7倍ぐらい。平均で1.6倍なので7倍では全国一、保育士の人材が少ないところということになるがそうとも思えない。

○谷口顧問

・給料が低いからではないだろうか。

○荒井知事

・大阪との差はあるが、セクター別の働き方をマッチングするというのは、給料だけの問題ではないということが分かってきている。給料の差よりも、生活の資質の差、生活のしやすさが志向されているから、一概に言えない。有名企業の本社がないので奈良に帰ってこないとも言われる。ニッチトップが結構あり優秀な人はいる。地域で見える化をして、マッチングの効率を上げるとか育て方をよくしようとかというような、地域で直接的なリクルートをするマーケットにならないかというのが地域雇用政策と「職業と学び」のもう少し先の目標になると思う。

・親の感心するところに就職して安心させるというのではなく、子供が適正に企業を

よく見て選択する時代がきている。結婚も職業も親が選択する時代は終わっている。

○松本顧問

教育だけで解決できない問題がある。職業価値を教育の中でどれだけ生徒に浸透させるか。親側が知る大企業に行きたいというイメージもまだあるだろうが、職業とは千差万別で自分で起業するということも含めてそこに価値があるのだという職業の価値・バラエティを教育の中に取り込む努力は、教育現場で今まであまりされなかったのではないか。だから、教育現場で教育をしながら、「あなたの目標は何ですか」と夢を尋ねるなどする中で、職業の多様性や価値を教員側がアドバイスするような教育プログラムを組まれたらどうかと思う。

○荒井知事

ニート、ひきこもりのような人たちはどのように回復できるのか。働く気持ちを育てるために、どの段階でどのようにすればよいのかというのは、まだ確立していない。

○松本顧問

全国に先駆けて奈良県で取り組めば大変大きな効果が出る。労働の価値、職業の価値は小さい頃から育てることが重要ではないか。

○荒井知事

今の教育の現場だけでなく、働く現場の目標でもあるが、働く喜びや意義については、現場で体験してもらおうというのが一つ行政の角度からあるように思う。価値を教えるのはなかなか難しい。言って身に付くものでもない。働く現場で喜んでもらい感謝されることが働く価値、喜びの根源になるので教室では与えられない気がする。

○谷口顧問

確かに、「ありがとう」と言ってもらうのが一番うれしかったと若い学生が皆そう言う。昔に比べてボランティアに手を挙げる者が多くなっている。

○荒井知事

感謝してもらうのが一番働く価値、働く喜びにつながる。「ありがとうと言ってもらえるような人になれ」と言う人が子供の頃そばにいれば、そうなるだろうか。

○高本委員

お話を聞いて感動していた。今、宇陀市で介護士と保育士を育てようと頑張っているが、地域の人たちが喜んでくれている。近隣に介護施設や保育所があるので実習に受け入れようと言っていた。介護士、福祉士のシリコンバレーだと言えるくらいにしたいし、自分もできる限り支えたいと思っている。

○荒井知事

・外国人労働者、介護士など日本に来ていただき育てるというようなテーマもある。日本全体で140万人ほどの中、奈良県では4,300人ぐらいと比率は少ないが、建設業・製造業が半分近く占めており、その方たちが幸せに、安定して働いているのかということも県行政のテーマ。

・ある他府県の女性がよく働く聞き、理由を探ってみると、自分の稼ぎになることに喜びがあるということだった。しっかりと稼げる働き場所を作って働き手を増やし、資格が要るなら教育でバックすることも考えたい。

○山口教育振興課長補佐

充実した意見交換でまだまだ時間が足りないが、議論は今後、第2回目以降の勉強

会に委ね、今回はこれで終了させていただきたい。最後に知事から本日の総括を。

○荒井知事

いろいろ刺激をしていただいてありがとうございました。十分勉強して、自由な討議を通じて、課題の所在を整理して解決する道筋を見付けるのが教育振興。何のために勉強するのかということや働くことについて、モチベーションを高めるのは教育の現場での課題でもあるし、地域の環境整備の課題でもある。複合的に全体的に考えないと地域の教育環境や職業と学びの環境が充実しない。そのように捉えると、知事が教育振興大綱を作ることに意味があり、他の要素と一緒に勉強することで教育の課題の解決の道が発見できるのではないかという目的が生まれると考えこのようなテーマになった。話が発展し、再編集すると教育振興大綱の体系に資するのではないかと考えている。今後ともお付き合いいただきたい。ありがとうございました。